


<p>[氏名] 山戸 昭三 広島県出身、1951 年生</p>	
<p>[現職] 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授</p>	
<p>[学生へのメッセージ]</p> <p>2017 年 4 月から、法政大学大学院で授業を担当します山戸と申します。計画的偶発性理論を知っていますか? 「好ましいキャリアは用意周到、綿密に計画し準備できるものと思っはいけない。むしろ偶然的にいつかやってくる絶好のチャンスを見逃さないように、常に備えてそれが起きたときのために準備し、心を広く開いておかなければならない」という考え方です。キャリアチャンスは、ただ待っていても訪れるものではなく、自ら行動を起こしてチャンスを生み出し、積極的に自分の手でつかみ取ることが大切です。計画的偶発性は、次の 5 つの要素によって具現化します。①好奇心 (Curiosity) , ②持続性 (Persistence), ③楽観性 (Optimism), ④冒険心 (Risk-Taking), ⑤柔軟性 (Flexibility) です。私も行動を起こしています。皆さんと、一緒に学べることを楽しみにしています。</p>	
<p>[専門分野]プロジェクトマネジメント、品質マネジメント、技術者倫理、生産管理、PMO、IT 経営プロジェクト、システム監査、IT システム開発、PBL (Project Based Learning)</p>	
<p>[担当科目]経営情報戦略、生産マネジメント、経営診断実習 II</p>	
<p>[研究室 (階と番号)] ※公開用 HP には掲載しません。</p>	
<p>[メールアドレス] ※公開用 HP には掲載しません。</p>	
<p>[主な経歴]</p> <p>1976 年 4 月 日本電気株式会社入社 2010 年 9 月 筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻教授(産学連携)(出向) 2013 年 3 月 日本電気株式会社退職 2013 年 4 月 筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻非常勤研究員 2015 年 4 月 愛媛大学大学院理工学研究科教授 2017 年 4 月 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授</p>	
<p>[主な研究業績/社会的活動]</p> <p>学位 : 2011 年 3 月 24 日 博士(情報科学) (北海道大学) 学位記番号第 9992 号 学位論文 プロジェクトの定量的評価とその予測に関する研究 “A Study on Quantitative Evaluation and Prediction of Project”</p> <p>著書 (1) 合格ターゲット PMP 試験問題集,オーム社, (2014)</p>	

- (2) PMP試験精選問題集,オーム社, (2010)
- (3) WBS/EVMによるITプロジェクトマネジメント,ソフト・リサーチ・センター、(2009)
- (4) プロジェクトマネジャー・リファレンスブック,分担執筆(第1章～5章の担当問題の解答例と解説 担当),日刊工業新聞社, (2009)
- (5) プロジェクトマネジメントハンドブック,分担執筆(第1編第2章, 第5編第3章 担当,編集幹事),オーム社, (2009)
- (6) PMO 構築事例・実践法～プロジェクト・マネジメント・オフィス～,分担執筆(第1章事例4 NECのPMO活動 担当),日刊工業新聞社, (2007)
- (7) PMP試験実践問題改訂2版,オーム社, (2006)
- (8) PMP試験完全研究,分担執筆(1,2,3,6,11章 担当),オーム社, (2005)
- (9) システム監査試験完全研究,分担執筆(第1章～4章の担当問題, 解答例と解説 担当),オーム社, (2005)
- (10) 高度情報処理終期3科目[SAN・PM・AE]共通午前問題過去問題&分析,分担執筆(第1章～3章の担当問題の解答例と解説 担当),経林書房, (2005)
- (11) アプリケーションエンジニア合格完全対策,分担執筆(第1章～6章の担当問題の解答例と解説 担当),経林書房, (2005)
- (12) アプリケーションエンジニア過去問題&分析,分担執筆(第1章～4章の担当問題の解答例と解説 担当),経林書房, (2003)
- (13) 第10次新版業種別審査事典,分担執筆(菓子卸売業, 情報機器周辺装置 担当)(株) きんざい, (2003)
- (14) 現代社会における情報管理と技術,分担執筆(第3章, 第6章1節, 第6章1節 担当),社団法人日本技術士会, (2003)
- (15) ビジュアル解説ITコーディネータ テキスト,分担執筆(第1巻2ITコーディネータに期待される役割 担当),日本経済新聞社, (2003)
- (16) プロジェクトマネージャ過去問題&分析,分担執筆(第1章～5章の担当問題の解答例と解説 担当),経林書房, (2002)
- (17) プロジェクトマネージャ合格完全対策,分担執筆(第2章8リスク管理 担当)経林書房, (2002)
- (18) 「起業」成功事例集,分担執筆(Ⅱ.13アプリケーションシステムサービス 担当)経林書房, (2002)
- (19) システムアナリスト過去問題&分析,分担執筆(第2章～5章の担当問題の解答例と解説 担当),経林書房, (2002)
- (20) 技術士口頭試験徹底攻略～口頭試験で失敗しないために～,分担執筆(第2章, 不合格事例 担当),テクノ, (2002)
- (21) プロジェクトマネジメント大全,分担執筆(第3部第3章第2節 担当),日経BP社(2002)
- (22) 中小企業診断士合格完全対策(経営情報システム),分担執筆(Ⅱ戦略情報システム 4.情報システムの運用 担当),経林書房, (2001)
- (23) 小売業の「情報システム」活用の具体策,分担執筆(6章4節 担当),経林書房(2001)
- (24) 中小企業診断士試験合格の秘訣,分担執筆(1章の5 担当),経林書房, (2000)

原著論文(査読付き論文)

- (1) 筑波大学大学院におけるIT実践力育成の施策と評価,山戸昭三,北川博之,田中二郎,コンピュータソフトウェア Vol.32,No.3,pp.29-38,(2015)
- (2) プロジェクトの定量的評価モデルの提案と適用事例,山戸昭三, 中村仁之輔, 本間

- 利久,Journal of the Society of Project Management Vol.12, No.4, pp.19-26, (2010)
(3) PMOによるプロジェクト評価の仕組みづくり,山戸昭三,Journal of the Society of Project Management Vol.9, No.4, pp.41-46,(2007)
(4) PMO活動におけるコミュニケーションマネジメントの役割,山戸昭三,Journal of the Society of Project Management Vol.7 No.1, pp.9-14,(2005)

[所属学会・団体]

- 2001年 4月～日本経営システム学会会員
2001年 6月～プロジェクトマネジメント学会会員
2007年 11月～情報処理学会会員
2015年 4月～日本オペレーションズ・リサーチ学会会員
2015年 4月～公益社団法人 日本工学教育協会 (JSEE) 会員
2015年 4月～日本ソフトウェア科学会会員
1999年 4月～中小企業診断協会東京支部会員、元中央支会理事
2001年 7月～ITコーディネータ協会会員、ケース研修インストラクタ
2001年 9月～PMI日本支部会員、第二代教育委員会委員長
2002年 4月～日本技術士会会員

[資格・表彰]

- 1979年2月第二種情報処理技術者 第2102264号
1982年1月第一種情報処理技術者 第1130443号
1983年2月特種情報処理技術者 第0140033号
1994年1月システム監査技術者 第42500351号
1997年3月経営品質協議会認定セルフアセッサー 認定番号 JQAC 00565
1999年4月中小企業診断士 登録番号 301353号
2000年1月システムアナリスト第A3100163号
2001年3月ITコーディネータ 認定番号 0013312001C
2001年9月PMP(Project Management Professional) Certification Number 38167
2002年1月技術士 [情報工学部門] 登録番号 47289
2002年10月品質審査員補 登録番号 A11744
2002年10月高等学校教員資格認定試験 情報種目 合格 平14高報第150号
2003年5月PMS(Project Management Specialist)資格認定番号認02-2-PMS0303号
2003年6月ISMS 審査員 登録番号 ISJ-B01236
2005年2月技術士 [総合技術監理部門] 登録番号 47289
2006年8月NPO 生涯学習第15回キャリア・コンサルタント検定合格第0601049号
2014年12月 日本統計検定2級合格

[研究業績・社会活動等報告書]

1. 研究業績

2. 社会活動

3. コンサルティング アドバイス業務

4. その他

私は、1976年より、日本電気株式会社でシステムエンジニア、プロジェクトマネージャ、プロジェクトマネジメントオフィスを30年以上経験しました。対象市場は、地方公共団体市場であり、市場の対象者は、自治体やその外郭団体の担当者でした。彼らとの対話から、それぞれの事業団体のあるべき姿やその実現方法、社会や産業界が期待する人材や求められる経営改革の方針、求められるITソリューションのあり方について議論してきました。

この間、独学で中小企業診断士、技術士〔情報工学部門、総合技術監理部門〕、ITコーディネータ、PMPなどの資格を取得し、企業内での活動から他の企業社員と連携して中小企業の支援やコンサルテーション活動をしてきました。

日本電気株式会社在职中から会社の代表として、当時、日本経団連で推進されていた筑波大学大学院や九州大学大学院、北海道大学大学院の学生を対象に産業界が求める高度ICT人材の育成に貢献して参りました。

2010年9月からは、筑波大学大学院の常勤教員（教授〔産学連携〕）に就任し、2015年3月まで、博士課程前期の学生とともにPBL（Project Based Learning）活動を通じて、実在する企業への課題解決を支援してきました。PBL科目は、学生4～5名が一つのチームとして、実在する企業の経営者にインタビューし、その経営課題や業務課題を抽出し、その解決のための要件をとりまとめ、ITソリューションとして提案し、顧客と合意した上でシステム開発を推進するというものです。私は、特にシステム開発の上流工程である要求分析・要件定義工程について、妥当性の観点で学生を指導してきました。システム開発に興味のある学生に対して、顧客企業にとっての価値を創出するという観点で、座学で教え、学生チームに同行して、現場での顧客とのコミュニケーション方法なども指導しました。

これまでに学生とともに推進したシステム開発は以下の通りです。

- ・フラメンコ & スペイン料理店の座席予約システム
- ・中小企業者支援者連携（情報共有システム）
- ・手芸店のインターネット販売におけるタブレットを使ったピッキングシステム
- ・タブレットを使ったKJ法ツールシステム開発

- ・農商工連携の川下における情報連携システム（高級着物販売支援ツール）
- ・テニススクールコーチ代行システム
- ・SWOT分析ツールの開発

2015年4月からは、愛媛大学大学院理工学研究科教授として、引き続き、学生の産学連携支援を推進しました。

実在する企業が抱える問題や解決のための要件はそれぞれ異なるものであり、学生自身にも制約条件があります。これらを十分把握したうえで解決策を合意しなければなりません。また、大学として学生チームを企業に派遣する場合には、対象企業と覚書を交換して合意しておくなどの施策を講じておく、などの工夫をしています。